

# 福岡博多東LCの 薬物乱用防止啓発活動

福岡博多東LC L 山田 達也

私は今期、福岡博多東LCの薬物乱用防止委員会の委員長を担当しています。

今年は元プロ野球選手の清原和博氏の覚せい剤使用事件など、社会的に衆目を集める薬物事件が多数発生しました。また、覚せい剤乱用での

検挙者が全国で1万人を超えた（そのうち中高年が過半数超を占めています）、福岡県においても、平成27年度の薬物事犯の検挙数は1027人に及びました。

このような状況の中、当クラブとしても薬物乱用の防止は社会の喫緊の課題であるとの認識を持ち、積極的に活動に取り組んでいます。

今回はライオンズ会員の皆さんに、当クラブにおける薬物乱用防止活動を紹介させていただきます。

②の講演活動は、当クラブ会

## 1 具体的な活動内容

当クラブの薬物乱用防止活動は、①街頭での呼びかけによる啓発活動、及び②学校や企業等の団体に対する講演活動に分けられます。

①の街頭啓発活動は、福岡県が主催する薬物乱用「ダメ・ゼッタイ」普及運動への参加（6月）、

全国の政令指定都市の薬剤師会主催で、全国一斉に同時刻に各地で展開する【NO DRUG KNOW DRUG 運動】への参加（7月）、福岡県と福岡市が主催する【危険ドラッグ夜回り隊街頭啓発活動】への参加（9月）が主たる活動となります。

## 2 活動に参加してみて

私自身、街頭での声掛けやティッシュ配りをするのは人生で初めてです。

この人は優しそうだから受け取ってくれそうだなとか、コワモテの人には配つたら怒鳴られるんじゃないかと躊躇しながらのティッシュ配りは、それ自体私にとって新鮮な体験でした。

また、配布するパンフレットやティッシュ、うちわなどで伝えられる情報は限られていますが、活動を単なる呼びかけで終わらせないためには、提供できる限ら

員で株式会社太陽薬局を経営する薬剤師のL中島英之が、現在の違法薬物の氾濫状況や危険性について、対象者に合わせた内容で講演を行うものです。L中島は、平成28年2月には福岡鴻臚館LCと共同で、福岡市博多区の博多女子中学校全校生徒を対象に、平成28年4月には西日本鉄道株の新入社員を対象に、平成28年10月には福岡市早良区の飯原小学校6年生を対象に講演を行いました。

された情報の中で、いかに効果的に薬物の危険性を伝えるかということを考えると必要があると感じました。タバコのパッケージそのものにショッキングな画像を載せていいと思います。



H28年7月 博多駅前での【NO DRUG ,KNOW DRUG】運動への参加

一方で、対象者に対し、薬物の危険性をダイレクトに伝えられるのはL中島による講演活動です。

私も飯原小学校でのL中島の講演を傍聴しましたが、その講演の中で、L中島は小さなカップラーメンをカップごと透明の瓶に入れ、その中にシンナーを流し込むという実験を行いました。

シンナーには油を溶かす性質があるため、カップラーメンの中身はそのまま残りますが、油（発泡スチロール）でできたカップ麺の白い容器はシンナーによつて溶けてしまふのです。

人間の体は脳を含めその約4分の1が油でできていることも解説されていましたので、カップ麺の容器が跡形もなく溶けてしまつたように、シンナーを吸ってしま

だということを、小学生が視覚的に理解できる良い実験でした。

聴講した小学生からも「自分の心や体を一度でだめにする薬物はとても怖いと思いました。自分と周りの人を不幸にする薬物を使う人が減つてほしいと思います。」「薬物を使うと体の臓器まで破壊されるということがわかりました。」「薬物は前から危険なものと分かっていたが、1回でも使用すると命に関わるほどとは思わなかった。依存症になつたら家族や友人も失い、独りぼっちになつてしまふ。そんな悲しいことは絶対にしないと決めた。」などの感想が寄せられました。

3 今後の活動のあり方



## H28年10月 L中島の飯原小学校での 薬物乱用防止授業

未来のある子供たちが、違法

と感じています。

L中島の講演を受講した小学  
生は、そのときは強烈に薬物の  
危険性を肌で感じ、絶対にやつて  
はいけないと決意していると思  
います。

しかし、その気持ちは永遠に  
続くとは限りません。

私も弁護士として犯罪行為におよんでしまった少年と関わる機

会が多くあります。

そしてそれらの少年が、誤った道に進みだすのは、圧倒的に中

学校時代が多いということを知つ

中学生1年生や2年生、先輩や

友人から誘われる機会が多く道

を踏み外しやすい時期にも継続的講習を行ってみて、悪

い道に誘われている少年がきつぱ

りと誘いを断り、正しい道や選択する契機になるのではないかと思ひます。

また、街頭での啓発活動は、ダイレクトに短時間で効果が表れ

る活動ではありません。

しかし、県や市、薬剤師会や

成する様々な団体が幅広く連携

4  
最後回

し、参加者を増やしていくことが  
大切です。

社会全体が薬物乱用の防止に  
向けて協力して取り組んでいるん  
だという雰囲気を社会全体で  
作っていくことが、薬物乱用防止  
に対する社会の共通認識を醸成  
し、間接的にではあっても薬物乱  
用者を減少させることに繋げて  
いけるのだと思います。

われわれライオンズ会員がその現実を直視し、様々な団体とも協力しつつ、社会が一丸となって薬物乱用防止に取り組んでいく必要があると思っています。